

# MACROCOSM



## CONTENTS

---

- 2 第4回「国際交流リーダー養成セミナー」
  - 6 青年国際交流事業50年既参加青年の集い
  - 9 国際理解教育支援プログラム
  - 10 平成21年度内閣府青年国際交流事業  
(航空機による青年海外派遣)報告会
  - 11 第36回「東南アジア青年の船」事業報告会
  - 12 青少年国際交流を考える集い(北信越ブロック大会報告)
  - 13 青少年国際交流を考える集い(近畿ブロック大会報告)
-

## 第4回「国際交流リーダー養成セミナー」

平成22年3月13日(土)～14日(日)、当財団主催の第4回「国際交流リーダー養成セミナー」を国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催しました。全国各地から、職業やボランティアとして外国籍市民の支援活動や交流活動に関わる方々の参加を得て、全体会、分科会、交流夕食会などを実施しました。今回は、日本における在住外国人支援及び交流の必要性について認識を深めていただくとともに、特に、地方自治体で扱われている助成金を効果的に活用するための企画書の作成方法や、プレゼンテーション方法等について実践的に学ぶ場としました。

日 時	内 容	
3月13日 (土)	11:00	開講式・オリエンテーション
	12:00～13:20	昼食
	13:30～16:00	<全体会> ①日本における在住外国人支援及び交流の必要性 ②プログラムの企画・立案方法
	16:10～17:45	<分科会①> A. 地域の在住外国人への支援プログラムの企画 (財) 青少年国際交流推進センター事務局長 大橋 玲子 B. 海外からの研修生・留学生との交流プログラムの企画 (財) 大阪府青少年活動財団 事業部体験活動推進グループ課長 赤木 功
	18:30～20:00	交流夕食会
	20:15～21:30	<分科会②> A. 地域の在住外国人への支援プログラムの企画 B. 海外からの研修生・留学生との交流プログラムの企画
	3月14日 (日)	7:00～
9:00～9:30	<朝の会>	
10:00～12:00	<分科会③> A. 地域の在住外国人への支援プログラムの企画 B. 海外からの研修生・留学生との交流プログラムの企画	
12:00～13:15	昼食	
13:15～14:10	<分科会④> A. 地域の在住外国人への支援プログラムの企画 B. 海外からの研修生・留学生との交流プログラムの企画	
14:15～15:00	<グループ発表>	
15:00～15:30	アンケート記入・振り返り	
15:30～16:00	閉講式	



開講式であいさつする(財) 青少年国際交流推進センター上村知昭理事長

### 全体会 「日本における在住外国人支援及び交流の必要性」

(財)青少年国際交流推進センター事務局長 大橋 玲子氏による講演

#### ▶「支援の際の考え方を明確に認識しましょう」

(参加者との質疑応答より一部抜粋)

**参加者:** 日系外国人のお子さんの学習サポートをしています。日本で既に5～6年生活している子どもたちで、日本語での会話にはほとんど不自由ないのですが、算数の文章題が読めないことがあります。今後、日本に定住する日系外国人の方も増えてくると思いますが、日本語指導だけではなく、勉強にまで支援の対象を広げたボランティアが必要だと感じています。

**大橋事務局長:** 日本では昔から「読み書きそろばん」と言われるように、読み書きを重視しています。かつては英語の学習も、文法やリーディングから始めることが多かったのもそのためでしょう。

しかし、一般の外国人の方が日本語を学ぶ際には、話し言葉から覚えますので、読み書きが最後になってしまいます。それで、会話はできるけれども、読み書きができないという方がかなりおられます。これは、外国語教育に対する価値観の違いもありますし、外国人が日本語を学ぶには、ひらがなにカタカナ、漢字…とかなりハードルが高くなってしまいます。とはいえ、彼らは言語習得への対応能力を持っていますから、集中的に援

助すれば、ついてこられるようになります。本当の意味で日本社会に適応していくには、読み書きが絶対的に必要なので、これに対応してあげるのはとても重要です。

留学生、研修生として日本に学びに来られた方は、日本のよいところを持ち帰りたいと思っています。彼らが持ち帰りたいと思っているものを私たちは、どのように提供できるか、また、どのようにサポートできるかという視点が必要です。

一方で、日本で仕事をし、日々生活をして日本国民に近い状態、あるいは、日本国民としてやっていこうという方は、いろいろな不満を持ったり、抵抗感があつたりするかも

もしれません。しかし、その人たちにとって、日本が住みにくい国であるからといって、日本社会や日本の価値観が急激に変わるわけではありません。ですから、今の日本の社会で仲間として共に生活していくために何が必要なのかを、彼らにきちんと理解してもらえようというアプローチが重要になるのです。その方の立場に立つとは、本当に必要なことを認識し、継続的に必要なことをサポートしてあげることでしょう。



**全体会 「プログラムの企画・立案」—地域における国際交流とは—**

(財)大阪府青少年活動財団 事業部体験活動推進グループ課長 赤木 功氏による講演

(一部抜粋)

◆「目的」と「ねらい」の重要性

このセミナーの目的は、「日本国内に在住している外国からの人々のコミュニケーションに焦点を当てる」ことです。特に、支援と交流という部分で、様々なコミュニケーションに焦点を当て、活動に必要な考え方やスキルを学びます。みなさんに色々なものを吸収して帰ってもらうことが目的です。

この目的を達成するために、二つの分科会に分かれています。これがねらいです。一つは「支援プログラムの企画」、もう一つは、「交流プログラムの企画」で、分科会で考えるアプローチは違いますが、最終的には、目的に到達することになります。目的だけを考えてプログラムを組むと、様々なねらいがあるため、まとまらなくなってしまいます。ですから、「今回のプログラムはこのようなねらいにしましょう」と設定しましょう。そして、ねらいは目的と必ず合致します。目的に到達するためのねらいだと考えると、「目的」と「ねらい」が混同されないと思います。

また、プログラム本番の前日か2日前には、目的とねらいの確認をすることが、現場スタッフの団結につながります。

◆地域性と継続性

「地域の国際交流」では、地域という観点での継続性が大事です。顔見知りができると、コミュニケーションが生まれます。交流プログラムで1回会って、2回目に「また会いましたね」、3回目に会ったら、もっと親しくなれます。だから「継続性」は地域の国際交流事業にとって大切です。参加者は、新しい出会い、新しい体験、新しい知識を得るために来るのであって、すでに知っていることを聞くためにわざわざ交通費を使って来たりはしません。

また、地域を巻き込んでください。例えば、東京にあるAという大学の中で、留学生が学生と交流をしても「地域交流」ではありません。「大学」という一つの枠内に収まっているからです。でも、これを「地域」に広げ、学生たちが地域に飛び出して何かアクションを起こすと、「地域」を巻き込んでいることに

なり、より深い交流が得られます。

◆ボランティアの個性を大切に

学生、主婦、社会人等、いろいろな方がボランティアとして参加しますので、それぞれの個性をしっかりと見て、それぞれの方にあった配置をしましょう。あなたは、笑顔がすてきだから受付をしてください等、ボランティアの個性をいかしてください。ボランティアのやる気を引き出すことにもなります。

◆事業評価

事業終了後に効果が見えるようなプログラム内容を考えましょう。実施した事業の効果を客観的に見るためにアンケートをします。だから、「楽しかったですか、楽しくなかったですか」といった質問ではなく、見えない効果を測るための質問をするべきです。実は、アンケートを作るのはとても難しいことです。事業の評価が見えてくるようなアンケートを作りましょう。



**第4回「国際交流リーダー養成セミナー」に参加して ..... 西片 つぐみ**

セミナーでは、全国各地からの参加者と2日間で一つの企画書を作成し、助成金申請のためにプレゼンテーションを行いました。時間に限りがあったため、企画書が思うようにまとまらず非常に困難でしたが、年代や職種も違うメンバーからは、とても貴重な意見が出され、各得意分野をいかにしながら企画する事はとても刺激的でした。メンバーが行き詰った時には、スタッフと講師の方が助けてくれました。そして、企画をするためのノウハウや話をスムーズに進めていくために注意する点など、様々な場面で活用できる事を学びました。企画をする時はまず「目的」、次に「ねらい」を考え、そこから計画していく事をこれからも忘れず、今回のセミナーで得た知識と経験をこれからの仕事に活用したいです。今回のセミナーを通し、本当に貴重な体験をさせていただきました。

最後になりましたが、講師の方々、主催者側のスタッフの皆様、そして参加者の皆様に改めて感謝いたします。



大橋講師からのコメント

分科会A 「地域の在住外国人への支援プログラムの企画」

様々な企画を実施する際のスタートとして最も重要なのは、「何を、どのような状態・状況になることを目指して」そのプログラムを行うのかという「目的」を明確にしておくことです。次に、具体的にどのようなことが実現できれば、目指したことに到達したことになるかをしっかり把握することです。そして、今回行おうとしている取組でどの部分を実現するかを決めて、得たい内容を定めていくのが「ねらいの設定」です。分科会Aは、この確認からスタートしました。次に、企画内容を考える前提として、どのような視点や要素が必要かを整理し、在住外国人支援に重要な考え方を絞り込みました。

在住外国人に必要な支援は数多くあります。しかし、私たちが全てを解決できるわけではないのですから、自分たちが取り組むべき重要なことは何かを定めて一つ一つ実現していくという考え方が大切です。

地域の在住外国人の方々への支援を企画する際に大切にすべき考え方はどのような点があるか、今回の参加者は、次のように考えました。

1. Give & Take (対等の関係)。主体者として扱う

2. その人の持っている力を引き出す。表現できる仕組み
3. 本人が地域に役に立っていると思える仕掛け
4. 生活に直接つながるもの
5. 継続性(先が見える。積み上げができる内容)
6. 一般化(把握できる範囲を広げておく)
7. キーパーソンの確保(在住外国人の中から中心となる人を育てる)

その中でも最後の「在住外国人の中からキーパーソンを育てる」という視点は、ユニークで大切なものです。「当事者の声を大切にし、当事者に主役になってもらう」という当たり前の視点が、在住外国人支援の場合には抜けがちです。「キーパーソンを育てる」といっても大変な努力が必要ですが、一人の中心人物ができることにより、次々に同様な存在の人々が増えるきっかけになるでしょう。「人を育てる」「相互に助け合う」との視点で取り組み、「問題」ではなく、「お隣同士の助け合い」になっていくのではないのでしょうか。「支援」という言葉ではなく「交流」となることを願って、活動を続けていっていただければと考えています。



付箋を使ってアイデアを分類する参加者



企画に重要な「目的」と「ねらい」のアイデア出しをする参加者

分科会Aに参加して.....和智 悠香里

私は、多文化共生に関心を持ち、日系ブラジル人の子供の学習サポートのボランティアをしています。この様な経緯から、このセミナーに参加することにしました。

私は「在住外国人への支援プログラムの企画」の分科会を選択し、他の参加者と一緒、「外国籍市民のキーパーソンの育成」という企画を立案しました。目的とねらいを明確にすること、企画の全体像を見失わないこと、企画が目的に沿っているかなどの企画ノウハウをたくさん学ぶことができました。まず

は、企画書による綿密な計画が必要です。必ずしも望んだ結果になるとは限りませんが、企画書通りに確実に実行されることによって、期待する結果や効果に繋がります。

私は4月から自治体の職員として働き始めるので、様々な事業やイベントを実施する際に、このセミナーで学んだ企画ノウハウを最大限にいかしたいです。短い期間でしたが、とても充実した時間を過ごすことができました。ありがとうございました。



分科会Aの発表



分科会Bの発表

赤木講師からのコメント

分科会B 「海外からの研修生・留学生との交流プログラムの企画」

分科会Bの要点を企画・立案において重要とされる「企画者の思い」「依頼者（スポンサー等）の思い」「対象者の思い（NEEDS）」とし、この3ポイントをバランスよく取り入れ、また、交流プログラム事業でよくあるチームでの企画を想定しながら実施いたしました。

分科会冒頭ではプログラムの「対象者の思い」を分析し、チームで共有することを目的として、外国人研修生・留学生が置かれている環境や彼らの思い、そして、求めていることを全員でアウトプットしました。その中には、「外国人自身が交流を望んでいない、交流時間がない、経済的に苦しい人もいる」「日本人の中にも積極的な交流を求めない人もいる」などの意見もありました。

次に、事業において最も大切な「企画者の思い」つまり「目的」を考え、その目的を達成するための「ねらい」の設定、事業終了後の効果を検証しました。これには、多くの時間を割いて、目的とねらい、効果に一貫性があるかどうかを考えました。何度となく、効果とねらいや目的がずれていく場面もあり、目的とねらいが明確に区別、整理できるようにアドバイスを加え、進行了いたしました。

最後に、助成金申請をするための企画書作成とプレゼンテーションを行い、「依頼者（スポンサー等）の思い」を形にすることで分科会を締めくくりました。事業の企画・立案において本当に大切にすべきことは何であるかを理解し、それを今後の活動にいかしていただければと期待しています。



意見をホワイトボードに書く参加者



チームワークを高めるアイスブレイクに取り組む参加者

分科会Bに参加して ..... 伊藤 優

2日間のセミナーで印象に残ったこととして一番に挙げられるのは、企画・立案において目的とねらいを徹底的に考えることがいかに重要かということです。講演、グループワークを通じ、企画者側で徹底して議論され、共有された目的とねらいが企画の軸であり、その質を決定付けるものであることを実感しました。

また、異なるバックグラウンドを持った参加者の方々の多様な問題意識に触れ、自身の国際交流に対する考え方、問題意

識にも変化があったように思います。

グループワークにおいて一つの国際交流企画を実際に作り上げる過程では幾度もその難しさを感じましたが、今回、体験的に学んだ企画・立案における考え方や手法、留意点、及び新たに獲得した問題意識は、今後の実践の中でいかしつつ、経験を積んでいく中で磨いていきたいと思っています。

最後に、こうした機会をご提供いただいた関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。



修了証を受け取る参加者



参加者とスタッフの記念撮影

## 「青年国際交流事業50年 既参加青年の集い 既参加青年代表事後活動報告会」

「青年国際交流事業50年 既参加青年の集い」は、平成21年4月20日、国立オリンピック記念青少年総合センター国際会議室にて、これまでの青年国際交流事業に参加した青年（既参加青年）が一堂に会し、事業開始からの50年を振り返り、既参加青年が行っている社会貢献活動（事後活動）への意欲を新たに、それによって事後活動への更なる取組を促進することを目的に開催されました。当日は、「青年国際交流事業の体験をいかして」と題する既参加青年の代表5名によるパネルディスカッションが行われ、およそ200名が参加しました。



役割	氏名	参加事業等
コーディネーター	酒井 洋幸	「第9回青年海外派遣」中欧（昭和42年度） 第10回「青年の船」（昭和51年度）他 元日本青年国際交流機構会長
パネリスト	河合 純子	第4回「青年海外派遣」東南アジア（昭和37年度）
パネリスト	大河原 友子	第14回「東南アジア青年の船」事業（昭和62年度）他 日本青年国際交流機構会長
パネリスト	芦口 正史	第8回「国際青年育成交流」事業メキシコ団（平成13年度） 海友会会長
パネリスト	得能 淳	第18回「世界青年の船」事業（平成17年度） 前日本青年国際交流機構運営委員

**酒井：**本日は、「青年国際交流事業の体験をいかして」というテーマで、青年国際交流事業の50年の歴史をたどりながら、今後の在り方等について話し合えればと思います。失礼ですが、年代順にご報告いただきます。河合さん、お願いします。

### ◆各パネリストによる事業参加と帰国後の活動の紹介

**河合：**第4回「青年海外派遣」事業で東南アジア、オセアニアに参りました。私は大阪府で地域の子ども会やYMCAで活動したり、職場の幼稚園で英語を教えたりしていた関係で、「青年海外派遣」事業に参加し、帰国後は、大阪青友会で「青年の見た世界」という写真展を開催しました。海外渡航自由化前の時代でしたから、大勢の人が見に来ました。また、「青年海外派遣」の訪問国にニュージーランドが含まれていたため、YMCAからマオリの踊りを習ってくるよう依頼され、帰国後、「マオリの歌と踊り」という本を作りました。事業後、5年間は大阪で活動し、結婚後は夫と共にカナダに移住しました。カナダでの10年間に、日本の文化をカナダの方にお知らせするのも事後活動の一つだと思い、勤務先のJETROの出先機関などで、お茶やお花を披露したり、コミュニティ・センターで日本語を教えたりしました。

その後、日本に戻り、兵庫県の明石海峡大橋の近くに住んでいます。自宅近くに孫文の記念館があり、そのご縁で、日中交流にもかかわるようになり、8回ほど中国へ参りました。また、兵庫県には「県民の船」という事業があり、副団長として乗船したこともあります。さらに、私の娘も第10回「世界青年の船」事業に参加し、第16回「世界青年の船」事業ではサブ・ナショナル・リーダーをしましたので、親子でIYEOの大会に参加するなど、楽しい時を過ごすことができました。

また、私の家族を今まで育ててくれたカナダとの交流を大切にしたいので「日本カナダ会」を立ち上げ、活動をしています。

他には、日本人として、美しい日本の文化を後世に伝えることが大切だと感じ、神戸市の湊川神社で日本の心を歌う会「楠公歌の会」を立ち上げ、副会長としてお世話しています。といいますのも、私は、楠木正成の生まれた大阪府唯一の村、千早赤阪村の出身で、今は楠木正成終焉の地、神戸市で暮らしている、そのご縁だと思っています。

**酒井：**海外派遣事業をきっかけとして以後、途切れることなく活動されている一つの見本です。さて、この海外派遣事業がスタートしたのが1959年、河合さんが参加されたのが1962年、私が参加したのが1967年ですので、私にも少し話をさせてください。

1967年、第9回「日本青年海外派遣」事業で中欧に行きました。行きは船、帰りが飛行機でした。私の派遣された年は、スエズ運河封鎖があり、マルセイユ行きの船がなくなったため、東欧圏がコースに入りました。ソ連からシベリア鉄道と飛行機を乗り継いで、ウィーンに入りました。当時の重点訪問国であった西ドイツでは、プロフェッショナルが青少年育成に携わっている現場を見ることができ、日本では、プロが青少年育成をすることが少ない時代でしたから、感銘を受け、自分こそが日本でこの仕事をするべきだと思いました。日本に帰ってから、青少年育成をする団体に入り、以後30年、定年まで勤めました。そして、現在ではNPO法人を立ち上げ、青少年育成をいまだに仕事として続けています。

また、IYEOの役員も務め、これが若さの秘訣だと考えています。これまでの40数年間を振り返ると、「青年の船」事業の班長や海外派遣事業の団長をさせていただくなど、まさに海外派遣が原点といえるような生活を送ってきました。

次に、1987年に参加された大河原さん、お願いします。

**大河原：**第14回「東南アジア青年の船」事業に参加しました。私は高校時代にアメリカに交換留学生として留学し、全く見知らぬ土地のファミリーに本当の子どものように面倒をみていただきました。温かいファミリーに巡り合ったことで、人と人との出会いのすばらしさを実感しました。帰国後は、日本で開催される国際会議や、日本在住の留学生等、いろいろな方とすばらしい出会いがあり、お友だちになると、「あなたのおうちに遊びに行くから」と約束して、本当に遊びに行く生活をしていました。

その後、ツアーコンダクターになり、世界40か国以上を旅しましたが、当時の私は、アメリカやヨーロッパなど、西洋に目が向いておりました。学生の頃、総務庁の青年国際交流事業の船のプログラムのポスターを見たことがあり、いつか未知の世界を知るために参加してみたいと思っていたところ、第14回「東南アジア青年の船」事業に乗船することができました。現在は、秋篠宮妃殿下とな

られた川嶋紀子さんが一般青年として参加された年のことでした。14回の日本青年のみならずASEAN各国の青年も、いまだに強い絆でつながっています。

その後、結婚し、主人の転勤でイギリスに住むことになり、現地の学校で日本文化を紹介するボランティアをしたり、イギリス在住の日本の子どもたちを集めて、ひな祭りや端午の節句など、海外では体験できない日本の伝統文化を子どもに体験させる会を主催したりしました。

帰国後は、子ども会、PTA等で海外の文化を紹介しました。また、英会話スクールを立ち上げ、フォニックスという現地の子どもが英語を覚えるときに使う方式で、2歳のお子さんから大人の方までを対象に英会話を教えています。さらに、「英語で教えるクッキング」というクラスもあります。英語はあくまでも手段なので、英語プラスアルファが必要だということ子どもに知ってもらいたくて、英語を使って算数や理科や社会を教えるクラスも開いています。また、2年に一度、子どもたちをオーストラリアに連れて行って、アウトドアの楽しみやホームステイの経験をさせています。ハロウィーンやクリスマス等のイベントを通じ、心が通じ合うような英語が話せる英会話スクールを目指しています。加えて、日本の四季折々の文化を英語で説明できるよう子どもの年齢に応じた形で教えています。海外に赴任される方を対象に、異文化セミナーなども開催しています。

振り返ってみますと、事業に参加して数多くの経験をし、多くのことを学びましたので、それを自身の成長に役立てるだけではなく、より多くの方に伝えるのが使命だと思います。私は14回「東南アジア青年の船」事業に参加した後、24回、25回のプログラムに管理部として乗船したことがきっかけとなって、IYEOの活動を再開しました。2001年には、「国際青年育成交流」事業ジンバブエ派遣団の団長を務め、また、「東南アジア青年の船」事業の事後活動組織であるSSEAYPインターナショナルの事務局長、昨年よりIYEOの会長をしております。

**酒井**：一つの経験からステップアップして、仕事やボランティアに自らの体験をいかしておられますね。次に、2001年に参加された芦口さん、お願いします。

**芦口**：和歌山県の海友会会長の芦口です。平成13年度に「国際青年育成交流」事業でメキシコへ行って以来、活動に参加し、平成17年度より会長をさせていただいています。この事業に参加する前は、団体に加入して国際交流事業をしたことはありませんでしたが、事業参加後は、せっかくの体験を還元したくて活動に参加するようになりました。今では、プログラムを自分たちで組み立て、無事に終えたときの達成感や、ホストファミリーや参加者から「ありがとう」とお礼の言葉を聞くのがうれしく、活動を続けています。

平成17年度「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」の地方プログラムを和歌山県で受け入れたことをきっかけに、オーストラリアの青年団体と交流を持つようになりました。ある年、和歌山県独

自でオーストラリアの青年を日本に受け入れてもらえないかと打診があり、「はい、喜んで」と受入れを決めてしまいました。ところが、いざ受け入れるとなると、日本の文化や伝統はおろか、地元の良いところすら知らないことに気づき、1年かけて、地元のよさを知ったり、スタッフの英語スキルを伸ばすための勉強会をしたりしました。おかげ様で、無事にプログラムを実施できました。その後、毎年、オーストラリアの人の受入れをした翌年には、日本人をオーストラリアに派遣する相互交流プログラムを独自に行っています。

田舎なので、受入れスタッフとして国際交流に参加する人が少ないのが現状です。能力や技術があっても仕事の都合等で活動に参加しにくい方もいますので、夜間や休みの日に参加してもらえるように場を設けています。

若者の中には、ひきこもり気味で他の人とコミュニケーションをとりにくい人もいますが、スタッフとしてプログラムに参加することで考え方が変わることもあります。また、ホストファミリーが「うちの子どもをスタッフとして使ってね」と言ってくださることもあるので、そのような輪を広げていきたいと思っています。

**酒井**：各地域で事後活動をする際の現状も含めていただきました。次に、平成17年度に参加された得能さん、お願いします。

**得能**：第18回「世界青年の船」事業に参加した得能淳と申します。私は帰国子女でしたので、海外の青年とかかわることは、ある意味、日常的なことでした。この事業に参加するきっかけになったのは、ブルネイに住んでいた小学生の頃、船がブルネイに寄港して、日本人学校の仲間と乗ったことです。その後、社会人になってから「世界青年の船」事業に参加しました。私は世界各国、日本全国から参加している「世界青年の船」の仲間とネットワークを作っているいろいろなことをしたいと思い、参加を決めました。

現在は、日本中、世界中にあるネットワークをいかした活動をしています。具体的には3つあって、スリランカ教育支援プロジェクト、「世界青年の船の森」プロジェクト、サポート・ケア・プロジェクトです。ネットワークのおかげで、メールで応援を募ったり、こういうことをしたいんだけど…と発信したりするとすぐに連絡があるので、非常にやりやすいと感じています。

今後は、IYEOのネットワークを活用し、この50年間で培われてきたものを外へつなげて、もっと大きなものにしたいと思っています。

#### ◆広報の重要性

**酒井**：現代のツールを使った交流の在り方を提案してくれました。昔は、青年活動に参加していたことがきっかけで、この事業に参加するよう選ばれ、帰国後は、事後活動や青年活動を続けることが多かったのです。しかし、近年では、事業参加前は、具体的に青年活動をしたことがなく、この事業に参加した後、はじめてIYEOを通じて青年活動をするというパターンが見られます。また事業内容としては、当初は、視察や学びであったものが、外国青年とのより深い交流という形になり、現在では、国際協力、国際貢献が重視され



酒井 洋幸



大河原 友子



芦口 正史



得能 淳

ています。さらに、お気づきの点等ありましたら、お願いします。  
**河合**：既参加青年の最大の貢献とは、この事業を自分の地域や、所属団体だけでなく、もっと多くの人に広報することだと思います。例えば、私は事業参加当時は大阪府藤井寺市に住んでいましたので、帰国後は、藤井寺市の成人式でこの事業のことをお話ししました。行政の事業と連携して広報に務めることができると思います。

さらに、現在、日本は観光立国を目指していますが、観光だけでなく、交流することが大切だと思います。個人個人がおしゃべりをしたり、一緒に食事をしたりすることが重要ですから、自宅の近くとカナダのバンクーバーに小さなお部屋を持ち、皆さんに泊まっていただけるように開放しています。B&B(ベッド・アンド・ブレックファスト)のおばちゃんではありませんが、できることを楽しみながらやっております。

**大河原**：最近では、青年活動をしている青年自体が少ないので、青少年団体等の推薦でこの事業に参加する人の数が減少しています。そこで、内閣府も広報に力を入れていて、英語の教材や、ラジオ番組で広報し、今年は20校以上の大学で説明会をします。また、各事業に参加した青年たちが、帰国報告会を行っています。個人をターゲットにPRするのが特徴です。

**酒井**：一番若い得能さんにお聞きしたいのですが、得能さんのお友だちはこの事業に対してどのような印象を持っていますか。

**得能**：自分が何をしたいのか、将来どのような人生を送りたいのかが分からない人が多かったように思います。でも、船に乗って、いろいろな価値観を持った人に出会ったり、海外の人がどのように考えているかを知ったり、同年代の青年が活躍しているのを見て、それをきっかけに自分も何かできるかもしれないと思ったようです。

**酒井**：やはり参加が大事だということですね。

**得能**：そうですね。そのためにはまず、このようなプログラムの存在を知ることです。プログラムから何を求めるかは人によって違いますが、きっかけとしてこの事業に参加するのは非常に意義があると思います。

**酒井**：大学や各地の成人式などでのPRも効果的かもしれませんね。広報以外の視点から、芦口さん、お願いします。

**芦口**：海友会の会長という立場では、活動を認知してもらうための広報活動は大切だと思います。地方では、仕事を休んでボランティアをしようと思う人はほとんどいませんが、実際に活動しているところを見せることによって、この活動は、これほど有意義なんだということを対外的にアピールでき、少しずつ考え方を教えていただけるかもしれません。さらに、若い人は、何かやりたくても、具体的なノウハウを持っていない場合があります。プログラムを組み立てる際には、まず自分で考えてもらいますが、〇〇さんのこの意見が参考になるよとか、こんな活動をしていたOBの方がいらっしゃるから相談してみたらどうか等と言って、上の世代と若い世代を結び付けて活動ができればと思っています。

**酒井**：この事業で得たものを社会に還元するには、対外的にPRする必要性を感じておられるのですね。今後、いっそう検討すべき課題です。

さて、既参加青年として、今度どのような役割を果たせるか、一言ずつお願いします。

◆既参加青年が今後果たすべき役割

**河合**：個人としての立場で申し上げますと、現在の私があるのは、カナダのおかげだと感じていますので、カナダから来た人、カナダへ行く人のお世話ができればと思います。人と人をつなぐ要になりたいということですね。

**芦口**：私は地方に住んでいますので、活動する人が少ないと感じることがありますが、協力してくれる人はいますので、楽しく、持続的に協力していただけるような場を作りたいと思います。

**得能**：この事業に参加した後、青年海外協力隊に行ったり、海外の大学院に進学したりする仲間がいます。事後活動を通して、既参加青年であろうがなかろうが、同年代の仲間に、自分の人生や考え方を変えるきっかけを提供したいと思います。

**大河原**：昔と違って、今では学生でもアルバイトをしてお金を貯めれば、海外に行くことができる時代になりましたが、政府がお金を使って、人材育成のための事業を現在まで続けているのは、やはりこれが意義あることだからだと思います。現在では、世界の約60か国に事後活動組織があり、それぞれの政府や地域で認められるようになってきましたので、このネットワークを活用し、私たちの経験を国際貢献につなげていこうと思います。

本日の配布資料には、IYEOの活動方針を掲載しています。「社会に活力を与えられる人材育成を目指して」ということで、変化の激しい現代社会において、これらの変化に対応して、幅広い視野を持って新しい取組を考え、実行できる人材が必要とされています。このような現状を踏まえ、50年にわたる内閣府青年国際交流事業で培われた青年育成のノウハウと、日本青年国際交流機構で築き上げたネットワークをいかした人材育成に取り組むことを大きな目標として掲げています。

**酒井**：大河原会長から活動方針の紹介がありましたが、まさにそれを目指しているところです。本日のディスカッションを振り返ってみますと、河合さんからは、息の長い活動の大切さを教えていただきました。芦口さんからは、地方組織の在り方についてお話いただきました。得能さんは、若者らしい、国際社会におけるネットワークの活用方法について述べていただきました。

50年の歴史の中で、事業の形態は「視察学習型」から「交流型」そして、「国際貢献」や「国際協力」に形を変えてきたこと、参加青年については、かつては青年活動をしている者の中から選抜され、帰国後は、事後活動や青年活動を続ける形が中心でしたが、現在では、この事業に参加してはじめてIYEOや地方組織にかかわり、青年活動を始めるというパターンが増えています。これからの青年活動のモデルをこの派遣事業を経験した青年たちが作り上げ、日本の青年活動がさらに伸びていく要になる時代であると感じています。

本日は、多くの方にご協力いただき、このパネルディスカッションを実施できたことを感謝申し上げます。締めとさせていただきます。ありがとうございました。





## 平成21年度「国際理解教育支援プログラム」

(財)青少年国際交流推進センター (CENTERYE)は、青少年国際交流事業の実施、青少年国際交流に関する啓発、情報提供、支援などを通じて、社会の各分野において国際化時代にふさわしい青少年の育成を目標としています。

その具体的な活動の一つとして、内閣府青年国際交流事業に参加した在日外国青年等を日本の学校等に派遣する「国際理解教育支援プログラム」を平成16年度から実施しており、今回は、今年度第4回目の東京都で実施されたプログラムについて報告します。

実施先：東京都立大塚ろう学校江東分教室  
 日時：平成22年3月8日(月)13:40～15:15  
 担当：赤司 郁子教諭(平成6年度「国際青年育成交流」事業(トンガ)副団長)  
 参加者：小学部4・5・6年生 計8名

### ◆講師

派遣された既参加青年等	出身国	参加事業
Ashraf Samman	エジプト	第16回「世界青年の船」事業参加青年

### ◆単元名：「外国の遊び、日本の遊び」

### ◆スケジュール

時間	内容
13:40-13:50	導入 ①本時のねらいを知る：工夫をして伝えよう／仲良くなろう ②活動内容を知る：外国の遊びと日本の遊びを紹介し合うことを知る ③自己紹介をしよう：習った英語で簡単な自己紹介とあいさつをする
13:50-14:15	活動Ⅰ ①外国の話を知ろう：外国人講師からエジプトの話を知る ②交流：一人ずつ、順番に知りたいことを質問する
14:15-15:05	活動Ⅱ ①日本の遊び1：児童が準備、練習したコマ回しを披露し、みんなで遊ぶ ②外国の遊び：エジプトの遊びを紹介してもらい、みんなで遊ぶ ③日本の遊び2：児童が準備、制作した「福笑い」を実演し、みんなで遊ぶ
15:05-15:15	まとめ ①感想を話し合う ②終わりの言葉

### ◆同行者の観察

昨年12月にも児童が英語で自己紹介をしたが、今回は、前回よりはるかに上手になっていて、その進歩に驚いた。英語を学ぶのは、外国の方とコミュニケーションをするためということを知り、先生が繰り返し説明し、子どもたちも自分の英語が相手に通じる喜びを知ることができた。

今回は、エジプト人講師のアシュさんが、ゆっくりとした明快な日本語でエジプトの文化、教育、歴史、地理の説明をした。板書したり、絵を描いたり、地図を使ったりしたため、子どもたちにもわかりやすく、30分以上に及ぶ講師の話に集中して聴いていた。

次に今回のテーマの「遊び」の発表をした。男子児童がコマ回しを披露し、女子児童が福笑いを実演した。よく練習していたようで、コマは勢いよく回っていたし、福笑いは表情豊かで歓声があがるほどだった。アシュさんからは、エジプト式のジャンケンなどを教わり、子どもたちはすぐにルールを飲み込んで新しい遊びに夢中になっていた。

最後に、赤司先生がまとめの話をされ、コミュニケーションが難しいように思えても、あきらめずに、自分が伝えたいことを工夫して相手に伝えることが大切だと強調された。字を書いたり、絵を描いたり、辞書を相手に見せることもできるし、また、アシュさんのように、自分の国のことを他の国の人に詳しく説明できるよう、いろいろなことを深く勉強するよう子どもたちに勧めていたのが印象的だった。



エジプトの歴史についてパピルスを使って説明するアシュさん



コマのまわし方の説明と実演をする男子児童



エジプトのジャンケンを教えてもらう



エジプトの遊びを教えてもらい、みんなで挑戦する



福笑いの説明をする女子児童



アラビア語でカードに自分の名前を書いてもらう

本プログラムの利用・参加を希望される方は  
 e-mail: iuesp@iyee.or.jp tel: 03-3249-0767 fax: 03-3639-2436まで  
 お問い合わせください。

# 平成21年度内閣府青年国際交流事業 (航空機による青年海外派遣)報告会

平成22年2月14日(日)、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、平成21年度内閣府青年国際交流事業(航空機による青年海外派遣)報告会を実施しました。

今年度の派遣国カンボジア、ドミニカ共和国、ラオス、ラトビア、中国、韓国)での活動から得られた成果の他、自分の変化、事業経験をいかした今後の取組、将来の夢が報告されました。また、昨年の実行委員が、実行委員会ミーティングでアドバイスをしたり、当日のOB・OGブースを担当したりし、年次を超えた協力体制が組み込まれました。

## ◆主なプログラム

時間	内容
13:15~13:30	開会式
13:30~14:45	参加青年による青年国際交流事業報告
15:25~15:35	ブースアピール
15:35~16:45	各派遣団等ブース展示
16:45~17:00	閉会式

## 平成21年度報告会実行委員長 北澤 彩子

昨年10月、派遣事業の興奮から覚めやらぬ中、初めての会議に集まった報告会実行委員。それぞれの担当の係が決まり、いよいよ自分たちの思いをどう伝えていくかを考える段階になって、それらをうまく表現できない自分たちに気がきました。報告会までの準備期間は、派遣中に発見したこと、学んだこと、感動したことなど派遣中に得た多くのものをそれぞれが整理する期間でもありました。

また、実行委員同士の結束を強めることも、準備期間中の大きな課題でした。派遣団ごとにそれぞれの「色」があり、最初はお互いになかなか馴染めない部分がありました。しかし、意見を出し合ったり、共に一つの作業を行ったりしていく中で、その「色」がきれいに混ざり合い、それが報告会全体の新たな「色」になっていったのです。

そして、前日の最終準備から参加したメンバーも含めて、ついに迎えた報告会当日。展示物の一つ一つを丁寧にみる来場者の方の姿や、「事業に参加してみたい」という声に、達成感を抱くと同時に、この派遣事業の経験をいかしていきたいという意欲がさらにわいてきました。この報告会を支えてくださった関係者の皆様に心より御礼申し上げます。



北澤彩子実行委員長

## 昨年の実行委員のコメント

今年はOB・OGとして参加し、来場者より、その後の活動についてたくさんの質問を受けました。昨年度の  
実行委員も、事業後、社会人になった人、海外留学をした人など様々ですが、事後活動を続けています。一度築いた関係を末永く続けていくことができるのも、この事業の魅力だと思います。今後は、自分が参加したパレット三国派遣団のOB・OGネットワークを中心に活動していきたいです。



OB・OGによる事後活動の展示ブース

(平成20年度報告会実行委員長 藤田 茜)

報告会をきっかけに、昨年度の実行委員が多く集まることができました。報告会で良い仲間と出会えたことを再認識しました。これからもつながっていく関係が築けたと思っています。

(平成20年度報告会副実行委員長 吉原 信一)



来場されたカンボジア大使館員に事業の成果を報告する



来場されたドミニカ共和国大使館員に事業の成果を報告する



報告会実行委員  
資料係作成の当日配布資料



各派遣団代表者による事業報告



派遣団ブースの特徴を紹介するブースアピール

# 第36回「東南アジア青年の船」事業報告会

平成22年2月28日(日)、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、第36回「東南アジア青年の船」事業報告会が実施されました。一般来場者と今年度参加青年をあわせて約150名が来場しました。参加青年はプレゼンテーションやブース展示などで、事業中に気づいたこと・学んだことを中心に本事業の成果を報告しました。

## ◆主なプログラム

時間	内容
13:00	開会
13:25	第36回「東南アジア青年の船」事業報告 各活動における参加青年の気づき・学びについてのプレゼンテーション
14:50	内閣府による平成22年度国際交流事業募集概要説明
15:40	展示ブース
16:30	閉会

### 第36回「東南アジア青年の船」事業報告会 実行委員長 平澤 一也

53日間という限られた時間の中、私たちは活動を通じて貴重な体験をし、かけがえのない友を得ることができました。帰国後、この事業が私たちにとってどのような存在だったのか、またこの事業からどのような影響を受けたのかなどを整理し、事業を通して得た自分の中の変化と気づきや発見を多くの方に知っていただきたいと思います。「53日間の軌跡」というテーマの下、報告会の準備を始めました。

私にとって報告会は本事業で得た経験を進化・発展させるきっかけであり、新たなスタートへの決意を固める機会となりました。



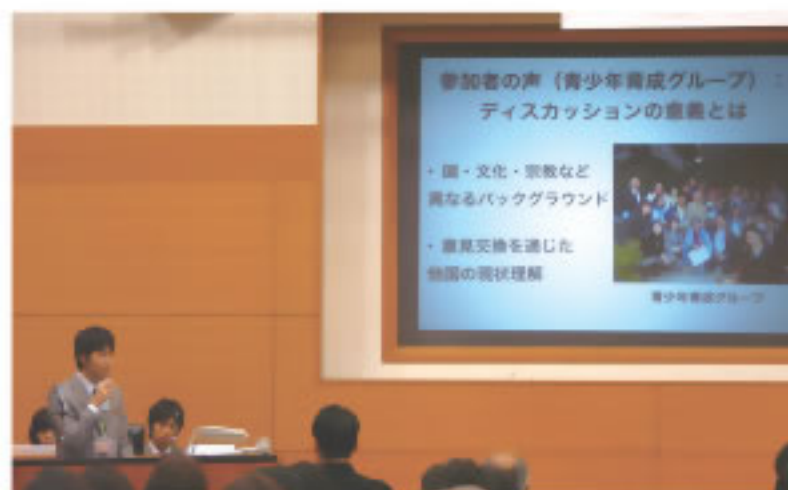
開会のあいさつをする筆者

「東南アジア青年の船」事業には困難に挑戦し、成長する機会が多くあります。これから私はベンチャー企業で働きます。そこには辛い事や苦しい事もあると思いますが、この事業で得た経験をいかし、諦めず挑戦し続け、社会に貢献できるよう努力したいと思います。

最後に、協力して下さった皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございました。



クラブ活動で習得したインドネシアのダンスを披露する



ディスカッションでの成果を発表する



個別ブースで来場者に体験を紹介する



受入家族からプレゼントされた衣装を着て、ホームステイの経験を話す



来場者に展示物の説明をする



第36回「東南アジア青年の船」事業日本参加青年  
—来られなかった仲間の分もがんばりました—



社団法人朝倉氏遺跡保存協会岸田清会長による基調講演



熱心に講演に耳を傾ける参加者

青少年国際交流を考える集い

# 北信越ブロック大会

日付：平成21年8月1日(土)～2日(日)  
 場所：美山森林温泉みらくる亭(福井県福井市)

大会テーマ：  
 古きを学び、未来につなごう！ふるさと福井  
 ～福井の歴史文化、伝統産業を知り、  
 地域貢献できる人材の育成をするんやぞ！～

北信越ブロック大会では、参加者に福井らしさを伝えられるように工夫しました。具体的には、福井県が抱える問題で、かつ、どの県でも問題となることが多い後継者不足や人材育成に焦点をあて、その問題を解決するためのヒントが得られるように、伝統継承をキーワードとした講演や分科会を企画しました。また、懇親会では、なるべく多くの方に一言コメントをいただくようにし、参加者同士の交流が促進されるよう心がけました。その結果、参加者からは、交流会でいろいろな方と知り合って、話ができてよかったという感想をいただきました。

会場が駅から少々遠いこともあって、交通の便についてはもう少し工夫が必要だったかもしれません。また、実行委員全員が集まる機会を設けるのが難しく感じられました。

## 日程

第1日目 平成21年8月1日(土)	
13:00	受付
13:30	開会式
14:00	基調講演「一乗谷朝倉氏遺跡にみられる地域の活性化」 講演者：社団法人朝倉氏遺跡保存協会会長 岸田清
16:00	分科会 1. 一乗谷朝倉氏遺跡に見られる国際交流 2. 酒造りに関する伝統継承の在り方 ～名水とこしひかり発祥の地-百薬の長について学ぶ～ 3. 越前和紙における人材育成 ～越前和紙の小物作り～
19:00	懇親会
第2日目 平成21年8月2日(日)	
09:00	チェックアウト・受付
09:30	帰国報告会
10:30	閉会式
11:00	地域理解研修「一乗谷朝倉氏遺跡見学」



基調講演者岸田清氏の案内で一乗谷朝倉氏遺跡を見学する参加者

## 参加者の声

- ・ 講演では熱心に話され、興味をもって聞くことができた。また、分科会では、実際に現地に行って、講師の先生自ら説明して下さったので、とても興味深かった。
- ・ 利き酒の方法など、初めて知ることが多くてよかった。
- ・ 和紙の小物作りは、なかなか難しかったが、記念の品ができたので、大事にしたいと思う。
- ・ 帰国報告会では、昨年度の参加者中心に、若い人のバイタリティあふれる体験を聞けたのでよかった。今後の参考にし、経験をいかしていきたいと思いを新たにすることができた。
- ・ 静かで自然あふれる会場でよかったが、遠かった。



帰国報告会で発表する「日本・中国青年親善交流」事業の参加青年



分科会3で「私の国際交流」について発表する参加者



参加者の記念撮影

青少年国際交流を考える集い

# 近畿ブロック大会

日付：平成22年1月30日(土)～1月31日(日)

場所：橿原観光ホテル(奈良県橿原市)

大会テーマ：「古都から繋がる、広がる国際交流」  
～あなたと私と、みんなでせんと！！～

近畿ブロック大会の開催にあたっては、各県のIYEO会長を通じてあらかじめブロック大会の宣伝をしておいたため、ブロック大会については、比較的早くから認知されていたと思います。また、奈良平城京遷都1300年祭が開催されているので、奈良県独自のイベントをブロック大会に含めようと思い、懇親会で1300年祭のオフィシャルソングを歌っている川本佐江子歌手と公式マスコットキャラクターのせんとくん(着ぐるみ)をゲストとして呼ぶことで会場を盛り上げました。各府県IYEOの近況報告の時間を設け、今後の互いの情報連絡を密に取れるように工夫しました。



歌手の清水まなぶ氏による講演及びコンサート

## 参加者の声

- ・ 講演会の清水まなぶ講師は、普段敬遠されがちな題材である戦争を、非常に受け入れやすい弾き語りという方法で今の世の中に伝えているのではないかと感じた。
- ・ 講演会では戦争体験者の声をもとにした弾き語りライブがあった。当時の記憶が思い出され、心が締め付けられる思いがした。このような体験談が孫の時代にも語り継がれるのは驚きだ。
- ・ 毎年こうやってブロック大会に参加すると、自分が貴重な体験をしてきたことを再認識できる。



帰国報告会で発表する参加青年

## 日程

第1日目 平成22年1月30日(土)	
13:00～13:30	受付
13:30～14:00	開会式
14:00～15:30	講演会及びコンサート(質疑応答を含む) 講師 清水まなぶ 内容 祖父の手記や戦争体験者の話をもとにした語り継ぎと、それを題材にしたコンサート
15:45～17:30	分科会 ①平和・国際友好に関する意見交換会 ②身近な国際交流(観光案内編) ③私の国際交流
18:30～20:30	懇親会
21:00～	交流会
第2日目 平成22年1月31日(日)	
09:00～09:15	モーニングアセンブリー
09:30～11:00	帰国報告会
11:00～11:30	閉会式
11:30～	地域理解研修(飛鳥周遊コース)

## 第22回「世界青年の船」事業帰国報告会

- 日 時：2010年6月20日(日)13:00～17:00(12:30開場)
- 場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟・国際会議室  
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号  
TEL: 03-3467-7201 (代表)
- 交 通：小田急線 参宮橋駅 下車徒歩約7分  
東京メトロ千代田線 代々木公園駅 下車徒歩約10分
- 主 催：内閣府政策統括官(共生社会政策担当)  
(財)青少年国際交流推進センター  
日本青年国際交流機構(IYEO)
- 問合先：(財)青少年国際交流推進センター  
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14 東京海苔会館6階  
TEL: 03-3249-0767 FAX: 03-3639-2436  
<http://www.centerye.org/>  
E-mail:swy22@iyeo.or.jp



写真は昨年度のものです

## 青少年国際交流事業事後活動推進大会 日本青年国際交流機構第26回全国大会 第17回青少年国際交流全国フォーラム 埼玉大会のお知らせ

期日：2010年11月27日(土)～28日(日)  
会場：ナチュラルファームシティ農園ホテル  
住所：〒368-0024 埼玉県秩父市上宮地町上の台5911-1  
TEL: 0494-22-2000 FAX: 0494-23-2000  
アクセス：西武池袋線、西武秩父駅より車で約7分(無料送迎有)、  
関越自動車道 花園J.Cから皆野寄居バイパス経由約40分  
\*詳細は後日お知らせします。

### 今月の表紙

第4回グローバル・フォト・コンテスト  
テーマ：「次の世代に遺したいもの」  
タイトル：The Fiery Splendor of the  
bond of LIFE  
(燃えるように輝く命の絆)  
撮影者：深作 ヘスス 光輝  
(SWY 18, 日本)  
撮影場所：インド、チェンナイ  
コメント：見えない命のつながりが、い  
つも、これからも美しく輝き  
続けるように。



### 編集後記

紙面の都合で割愛せざるをえませんでした。今号P.6-8の「青年国際交流事業50年既参加青年の集い」のディスカッションで、大河原友子会長が、「どんな大きなプロジェクトでも、最初に誰かが思いつかない限り、生まれにくい、その思いついた人にどんなにパワーがあろうとも、一人の力だけではどうすることもできません」と述べられて、人と人とのつながりの大切さを強調されていたことに感銘を受けました。(ふ)

## MACROCOSM 3月号 vol.89

2010年3月31日発行  
編集 マクロコスム編集委員会  
発行 (財)青少年国際交流推進センター  
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町  
2-35-14 東京海苔会館6階  
TEL: 03-3249-0767 FAX: 03-3639-2436  
e-mail: macrocosm@iyeo.or.jp  
URL: <http://www.centerye.org/> (CENTERYE)  
<http://www.iyeo.or.jp/> (IYEO)  
編集協力 内閣府政策統括官(共生社会政策担当)  
日本青年国際交流機構 (IYEO)  
定 価 200円 **本体191円**  
印刷所 株式会社デックス  
TEL: 03-3400-8089 FAX: 03-5469-5270



「ココロ花咲く、ステキな旅を。」

支店名	電話番号
札幌支店	011-221-0821
青森支店	017-723-3671
盛岡支店	019-651-8800
仙台支店	022-263-3232
秋田支店	010-966-0106
山形支店	023-641-4141
福島支店	024-523-4451
新宿支店	03-3340-0600
横浜支店	045-326-1120
水戸支店	029-224-6627
宇都宮支店	028-636-7761
高崎支店	027-325-3201
さいたま支店	048-640-1009
千葉支店	043-243-0109
新潟支店	025-243-1515
甲府支店	055-222-0384
長野支店	026-226-4315
富山支店	076-431-7638
金沢支店	076-233-0109
福井支店	0776-23-2800
岐阜支店	058-263-4657
静岡支店	054-255-1919
浜松支店	053-453-0166
名古屋支店	052-232-1091
三重支店	059-221-3331

支店名	電話番号
大阪支社第2営業部	06-6344-3933
滋賀支店	077-565-0109
京都支店	075-361-5351
神戸支店	078-221-1090
姫路支店	079-224-5761
奈良支店	0742-23-2371
和歌山支店	073-425-3211
鳥取支店	0857-23-2001
松江支店	0852-21-5425
岡山支店	086-225-1746
広島支店	082-545-1090
徳島支店	088-622-8991
高松支店	087-851-6666
松山支店	089-941-9231
高知支店	088-825-0109
新山口支店	083-972-5454
福岡支店	092-739-0010
佐賀支店	0952-26-1131
長崎支店	095-827-4151
熊本支店	096-354-5765
大分支店	097-538-1091
宮崎支店	0985-25-6111
鹿児島支店	099-257-0109
沖縄支店	098-868-8822

国際会議から出張まで、  
お問合せは、上記支店またはお近くのトップツアー各支店へ

お客様満足度100%+αを追求するサービスマインド。

お客様の立場になる「想像力」、プラスアルファを創る「創造力」。

50年の実績と豊富な情報力を駆使して

高品質・高付加価値の商品とサービスを提供するトップツアー株式会社。

私たちは、旅を通じて新しい出会いと感動を創出する

[旅行インテリジェンス企業]です。



東急観光が社名を変えました。

**トップツアー株式会社 新宿支店**

官公庁長官登録旅行業第38号 ●日本旅行業協会正会員・ポンド保証会員  
〒153-8550 東京都目黒区東山3丁目8番1号

**TOPTOUR** <http://www.toptour.co.jp>

**03-3340-0600**



# NEW NIPPON MARU 2010.3 DEBUT.

NIPPON MARU



## 生まれ変わった船内施設



オーシャンダイニング「春日」

リドテラス

ホライズンラウンジ

グランドスイート

じつぱん丸撮影・斎藤剛志

## 古都鎌倉と八丈島クルーズ

4日間

2010. 7/11(日)~7/14(水) 神戸→横須賀→八丈島→神戸

■旅行代金(大人お一人様・消費税込)  
127,000円~600,000円

神戸発着で、歴史情緒漂う鎌倉と、黒潮の恵み豊かな八丈島へご案内。古都の文化と離島の豊かな自然を満喫していただくオプションツアーも企画しています。



写真協力:八丈町役場

## 夏休み三陸クルーズ ~石巻・釜石~

4日間

2010. 7/28(水)~7/31(土) 横浜→石巻→釜石→横浜

■旅行代金(大人お一人様・消費税込)  
127,000円~600,000円

夏真っ盛り、さわやかな気候の東北地方を訪ねます。海の幸が豊富な石巻には初入港。みちのくの魅力と地元食材を存分に満喫していただけます。



## 東北夏祭りクルーズ

6日間

2010. 8/2(月)~8/7(土) 横浜→秋田→青森→横浜

■旅行代金(大人お一人様・消費税込)  
222,000円~1,050,000円

祭り一色に染まる東北の夏、秋田竿燈まつりと青森ねぶた祭をにっぽん丸のお客様専用の棧敷席から観覧していただけます。その迫力を間近で体感してください。



## 横浜/小樽クルーズ

3日間

2010. 8/25(水)~8/27(金) 横浜→小樽

■旅行代金(大人お一人様・消費税込)  
59,000円~399,000円

三陸沖を北上し、イカ釣り漁船の漁火が揺れる津軽海峡を通過して小樽へ向かいます。手頃な価格の片道クルーズながら、本格的なクルーズが楽しめます。



※表示の代金はコンフォートステートグループ3(1室3名利用)~グランドスイート(1室2名利用)の大人お一人様(船内食事付/消費税込)旅行代金です。  
※このほかにも各種クルーズがございます。お気軽にお問い合わせください。※掲載の写真はイメージです。

商船三井客船

お問い合わせ・お申込は商船三井客船クルーズデスク URLが変更されました

0120-791-211

<http://www.nipponmaru.jp>



ボンド保証会員

〒107-8532 東京都港区赤坂1-9-13 三井ビル5F

